特定外来生物 クビアカツヤカミキリの生態と防除対策について

～　草加市での桜被害状況を追う 2026　～

研究期間：2026年5月31日～2026年8月31日　　草加市立両新田中学校 2年2組 對﨑凛音

1．観察・研究の動機

昨年夏、草加市内を流れる伝右川の右岸・左岸に植樹されている桜161本について、クビアカツヤカミキリによる被害割合がどの程度であるのか樹木を丁寧に観察し、31本に被害が及び被害割合が19.3%に急拡大している事を確認した。１個体で400個以上の卵を産むクビアカツヤカミキリの対策は急務であり、個体数増加の防止、とりわけ樹木内部に入り込み、木を食い荒らし甚大な被害を与える幼虫撲滅は一刻を争う状況だと言える。クビアカツヤカミキリの研究を始めて１年半、まだまだ生態に関して分からないことが多く、興味がつきない。「草加市内でこれからも毎年安心して桜が鑑賞出来るように」との思いも有り、謎多き特定外来生物『クビアカツヤカミキリ』について生態を解明すべく、2025年より調査を開始した。

アロミアブンギ
学名：Aromia bungii



2．これまでの研究でわかったこと

1．成虫は５月下旬から発生し、７月中旬まで活動する。メスは４００個以上の卵を産む。
　越年はせず、２～３ヶ月で生涯を終える。
2．卵は樹皮の裂け目などに産卵し、孵化後幼虫は樹木内部に侵入する。
3．幼虫の状態で樹木内を食い荒らし、約2年間（足掛け3年）を過ごし、蛹（サナギ）を経て５月から７月の間に成虫になる。幼虫は侵入した穴などから木くずとフンの混合物「フラス」を大量に排出する。また、フラスは幼虫の唾液が混ざっており、かりんとうの様に固い。おがくずのようなふわっとした物を想像してしまうが実は固い。（写真１参照）
4．幼虫は地表から2メートル程度の高さまでの幹や露出した根を食害する。（写真２参照）
5．古木の大木が上空から見えやすく、狙われやすい。（木肌がごつごつしていて卵を産み付けやすい）



（写真１）　幼虫が排出したフラス
　　固く、かりんとうの様な形状



（写真2）　地表から２ｍの高さまで設置された
　　防虫ネット

3．被害拡大を防止するための対策

現在のクビアカの早期発見・防除対策には以下の課題が有る。**① 被害が首都圏において広がっているが、住民への周知が進んでいない。② 被害情報は各自治体内ではとりまとめられているが、広域的かつ統一的な情報共有には至っていない。③ 現在の防除取組は、被害拡大を防止するには必ずしも十分ではない。**まずは個体数をこれ以上増やさない対策を講じることが大事だと考えるが、１個体で４００個以上の卵を産む成虫の存在は厄介である。仮に４００個の卵が全部孵化し、その幼虫が成虫となり、半数の２００匹がメスだとして、同じように産卵した場合、２００匹×４００個の産卵が行われ、８０,０００匹（８万匹）の幼虫が樹木内に入り込む事になる。たちまち桜の木が食害により枯れてしまう事になると考えられる。以上のことから下記に示す対策が必要であると考える。

課題１．成虫を捕殺することで絶対数を増やさない対策を行うこと。

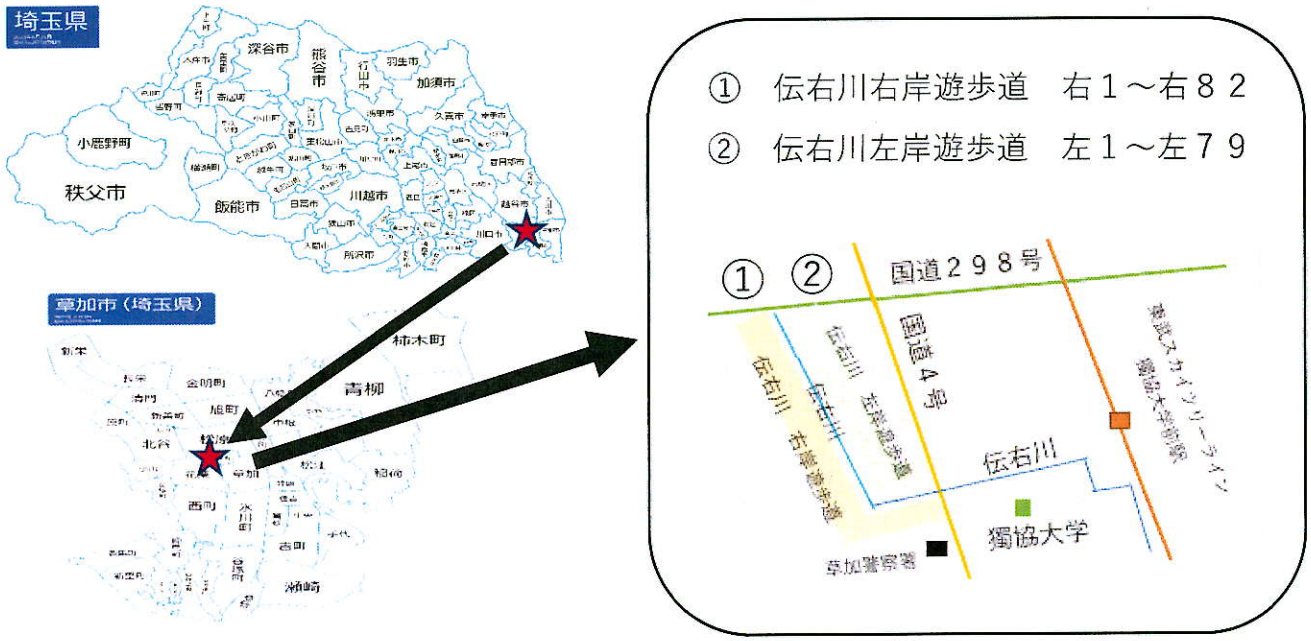
課題２．樹木に産み付けられた卵を孵化させない対策を行うこと。

4．観察場所

今年度は、伝右川（国道4号西・小鳥のさえずる森：花栗・北谷・小山地区）左岸遊歩道７９本、右岸遊歩道８２本に加え、クビアカが多く出現するという情報を得た『八條用水橋～笹橋間』の桜３１本を追加調査することにした。

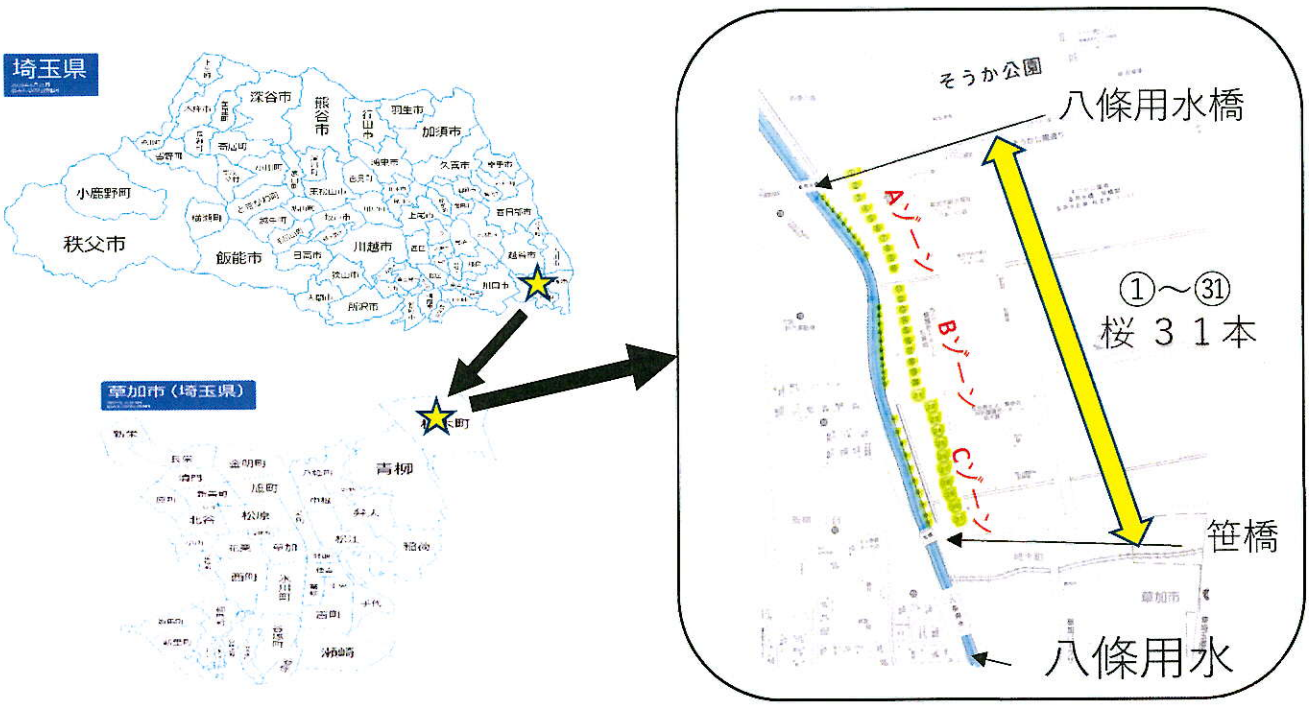
【観察場所１】

伝右川（国道4号西・小鳥のさえずる森：花栗・北谷・小山地区）左岸遊歩道７９本、右岸遊歩道８２本、合計１６１本



【観察場所２】

そうか公園南　八條用水橋～笹橋間　八條用水左岸歩道 ３１本



5．桜の被害状況定点観測確認結果

伝右川（国道4号西・小鳥のさえずる森：花栗・北谷・小山地区）の左岸遊歩道７９本、右岸遊歩道８２本についての桜被害状況を詳細に記録した。全数確認の結果は次のページの通りとなった。

① 幼虫侵入孔・脱出孔の有無（木の幹に空いた小さな穴）　→　有れば〇、無ければ×

② クビアカによるフラスの有無（木くずと幼虫の糞が混ざったもの）　→　有れば〇、無ければ×

③ クビアカ以外の昆虫による桜の木への被害　→　有れば〇、無ければ×

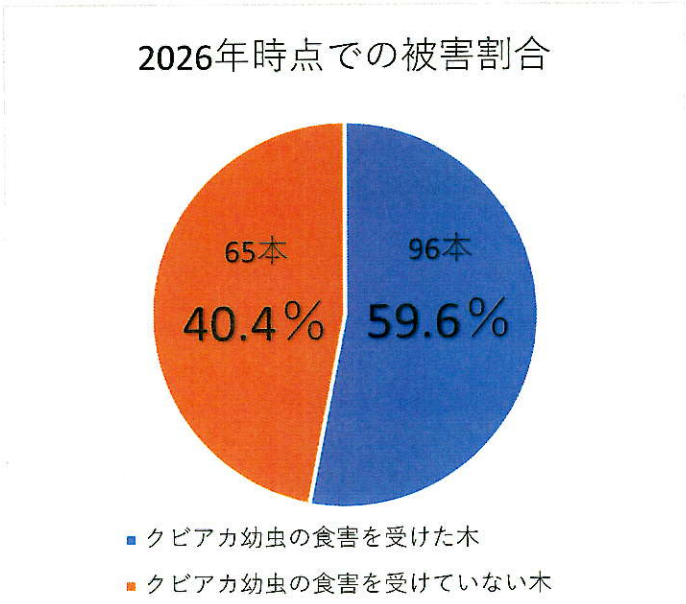
④ 樹木保護のため木の根元に薬剤投与が行われた形跡の有無　→　確認出来れば〇、確認出来なければ×

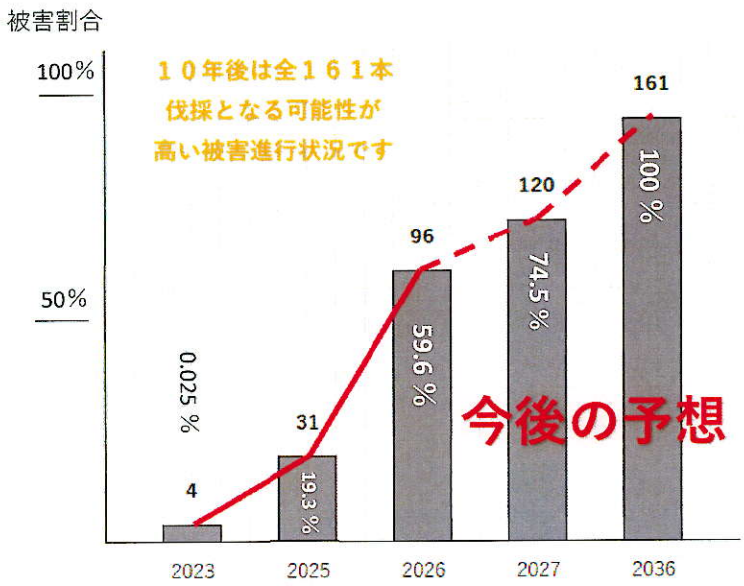
⑤ 本年度新たに設置された成虫脱出防止ネットの有無　→　有れば〇、無ければ×

伝右川（国道4号西・小鳥のさえずる森：花栗・北谷・小山地区）左岸遊歩道７９本・右岸遊歩道８２本　桜被害状況一覧表

樹種番号	①	②	③	④	⑤	樹種番号	①	②	③	④	⑤	樹種番号	①	②	③	④	⑤	樹種番号	①	②	③	④	⑤
左１	○	○	×	×	○	左４２	×	×	×	×	×	右１	×	×	×	○	×	右４２	○	○	×	×	×
左２	○	×	×	×	×	左４３	×	×	×	×	×	右２	×	×	×	×	×	右４３	○	○	○	×	×
左３	○	×	×	○	○	左４４	×	×	×	×	×	右３	×	×	×	×	×	右４４	○	○	×	×	×
左４	○	○	×	×	○	左４５	×	×	×	×	×	右４	×	×	×	×	×	右４５	○	×	×	×	×
左５	○	×	×	×	×	左４６	×	×	×	×	×	右５	×	×	×	×	×	右４６	○	○	×	×	×
左６	○	×	×	×	×	左４７	×	×	×	×	×	右６	×	×	×	×	×	右４７	○	○	×	×	×
左７	○	×	×	×	○	左４８	○	○	×	×	×	右７	×	×	×	×	×	右４８	○	×	×	×	×
左８	○	○	×	×	○	左４９	×	×	×	×	×	右８	×	×	×	×	×	右４９	○	×	×	×	×
左９	○	○	×	×	○	左５０	○	×	×	○	×	右９	×	×	×	×	×	右５０	○	○	×	×	○
左１０	×	×	×	×	×	左５１	○	×	×	×	×	右１０	×	×	×	×	×	右５１	○	○	×	×	×
左１１	○	○	×	○	○	左５２	○	○	×	×	×	右１１	×	×	×	×	×	右５２	○	○	×	○	○
左１２	○	○	×	×	×	左５３	○	○	×	○	○	右１２	×	×	×	×	×	右５３	○	×	×	○	○
左１３	○	○	×	○	○	左５４	○	×	×	○	×	右１３	×	×	×	×	×	右５４	○	○	×	×	×
左１４	○	×	×	×	○	左５５	○	○	×	○	○	右１４	クビアカの影響で伐木済					右５５	○	○	×	×	×
左１５	クビアカの影響で伐木済					左５６	×	×	×	×	×	右１５	×	×	×	×	×	右５６	○	○	×	×	×
左１６	○	×	×	×	×	左５７	×	×	○	×	×	右１６	×	×	×	×	×	右５７	○	○	×	×	○
左１７	○	×	×	×	○	左５８	×	×	×	×	×	右１７	×	×	×	○	×	右５８	○	○	×	×	○
左１８	×	×	×	×	×	左５９	○	×	○	×	○	右１８	×	×	×	×	×	右５９	○	○	×	×	○
左１９	×	×	×	×	×	左６０	○	×	×	○	○	右１９	○	○	×	○	○	右６０	○	○	×	○	○
左２０	×	×	×	×	×	左６１	×	×	×	×	×	右２０	○	○	×	○	○	右６１	○	×	×	×	○
左２１	×	×	×	×	×	左６２	○	×	×	×	○	右２１	×	×	×	×	×	右６２	×	×	×	×	×
左２２	○	○	×	○	○	左６３	×	×	○	×	×	右２２	○	○	×	○	○	右６３	○	×	×	×	○
左２３	○	×	×	○	○	左６４	×	×	×	×	×	右２３	×	×	×	×	×	右６４	○	○	×	×	○
左２４	×	×	×	×	×	左６５	×	×	○	×	×	右２４	×	×	×	×	×	右６５	○	×	×	○	○
左２５	×	×	×	○	×	左６６	○	×	×	×	○	右２５	×	×	×	×	×	右６６	×	×	×	×	×
左２６	○	×	×	○	○	左６７	×	×	×	×	×	右２６	×	×	×	○	×	右６７	○	×	×	×	○
左２７	○	○	×	○	○	左６８	○	×	×	×	○	右２７	○	○	×	×	○	右６８	○	○	×	×	×
左２８	○	×	○	×	×	左６９	×	×	×	×	×	右２８	×	×	×	×	×	右６９	○	○	×	×	×
左２９	×	×	○	×	×	左７０	×	×	×	×	×	右２９	○	○	×	○	○	右７０	○	○	×	×	○
左３０	○	×	×	×	○	左７１	×	×	×	×	×	右３０	○	○	×	×	○	右７１	○	○	×	×	○
左３１	○	×	×	×	○	左７２	○	×	×	×	○	右３１	クビアカの影響で伐木済					右７２	○	×	×	○	○
左３２	×	×	×	×	×	左７３	×	×	×	×	×	右３２	×	×	×	×	×	右７３	○	×	×	×	×
左３３	×	×	×	×	×	左７４	×	×	○	×	×	右３３	×	×	×	×	×	右７４	○	×	×	×	○
左３４	×	×	×	×	×	左７５	×	×	○	×	×	右３４	×	×	×	×	×	右７５	○	○	×	×	×
左３５	○	×	×	×	○	左７６	×	×	×	×	×	右３５	×	×	×	×	×	右７６	×	×	×	×	×
左３６	○	○	×	○	×	左７７	×	×	×	×	×	右３６	×	×	×	○	×	右７７	○	○	×	×	×
左３７	×	×	×	○	×	左７８	×	×	○	×	×	右３７	×	×	×	×	×	右７８	○	×	×	×	×
左３８	○	×	×	○	×	左７９	×	×	○	×	×	右３８	×	×	×	×	×	右７９	○	×	×	×	×
左３９	○	○	×	○	○							右３９	×	×	×	×	×	右８０	○	○	×	×	○
左４０	○	○	×	×	○							右４０	×	×	×	○	×	右８１	×	×	×	○	○
左４１	○	○	×	×	○							右４１	○	×	×	×	×	右８２	○	○	×	○	○

被害が確認された木の番号は黄色で着色した。その結果、2023年5月時点では３本（草加市ホームページでの発表データ）、2025年7月の調査では31本、2026年７月の調査では96本の木がクビアカの幼虫による食害を受けていた。桜の木161本のうち96本、割合にして59.6％の木がクビアカ幼虫による食害被害を受けている事が分かった。



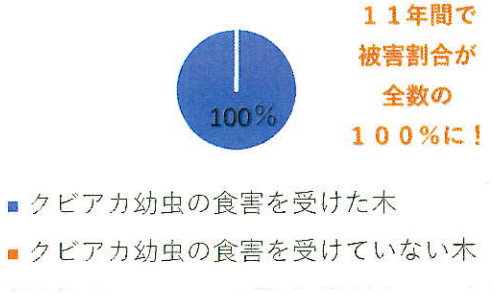


昨年と比較し葉の数が減少している桜の木、枝や幹に亀裂が入り倒木の危険がある木の数が増えていることが大変気になった。また、樹木保護のため木の根元に薬剤投与が行われた形跡の有る樹木でも新たな食害を受けており、薬剤投与の効果が限定的で有る事も分かった。伝右川の桜の木は樹齢が４０年以上になり、樹木自体の元気も無くなってきており、伐木を選択せざるを得ない状況に追い込まれ、今後１０年で全て伐採するような事態になることが予想される。今年は特に被害が甚大とされる、そうか公園南の八條用水橋から笹橋間の桜３１本ついても追加調査する事にした。草加市内でもクビアカ成虫の発生数が多いという報告が寄せられる場所となる。調査結果は以下の通りであった。

そうか公園南　八條用水橋～笹橋間　八條用水左岸歩道 ３１本の桜被害状況一覧表

桜株番号	①	②	③	④	⑤	桜株番号	①	②	③	④	⑤	桜株番号	①	②	③	④	⑤	桜株番号	①	②	③	④	⑤
1	○	○	×	×	○	9	○	○	×	×	○	17	○	×	×	×	×	25	○	×	×	×	×
2	○	○	×	×	○	10	○	×	×	×	×	18	○	×	×	×	×	26	○	○	×	×	○
3	○	×	×	×	×	11	クビアカの影響で伐木済					19	○	○	×	×	○	27	○	×	×	×	×
4	○	○	×	×	○	12	○	×	×	×	×	20	○	×	×	×	○	28	○	×	×	×	○
5	○	○	×	×	○	13	○	○	×	×	×	21	○	○	×	×	×	29	クビアカの影響で伐木済				
6	○	○	×	×	○	14	○	○	×	×	○	22	○	×	×	×	○	30	○	×	×	×	○
7	○	○	×	×	○	15	○	○	×	×	○	23	○	×	×	×	×	31	○	×	×	×	○
8	○	○	×	×	○	16	○	×	×	×	×	24	○	○	×	×	○						

被害が確認された木は黄色で着色した。その結果、2015年5月時点では３1本全ての桜の木がクビアカの被害無く生育していたが、2026年６月の調査では31本全ての木でクビアカの幼虫による食害被害が及んでいる事が分かった。





他の木は青々と葉を付けているのに対し、葉が枯れて水を吸い上げる力が無くなってしまった４番から７番の桜の木

今年５月には青々とした葉を付けていたが、６月～７月の幼虫食害を受け、すっかり枯れ木になってしまった４番の木が最もフラスの被害が大きかった。

6．クビアカ成虫の観察

① 成虫の出現場所調査

→ 次にクビアカが出現する場所や時間、天候など特徴がないか調査を行った。桜並木をくまなく調査していく内に出現場所に以下の特徴が有ることが分かった。



・塀や建物などの遮蔽物が無く、日光（紫外線）が多く当たる所に多く出現する。逆に家屋や塀が直近にあり、日当たりが悪い場所にある桜の木には出現しない。

そうか公園南　八條用水橋～笹橋間の桜31本には遮蔽物が無く、日の光がさんさんと降り注ぎ、クビアカが多く出現する 場所となっている。

・午前中に多く出現し、活発に活動する。（８時から１０時くらいの間で出現率が高い）
・雨の日には出現しない。
・気温が３０℃以上で晴天の日に多く発生し、活発に行動する。
・桜の木の近くに梅の木など、エサとなる樹木がある場合はその直近の桜の木に多く発生する。
・街路灯が近くにある桜の木に多く出現する。（光を好む性質がある）

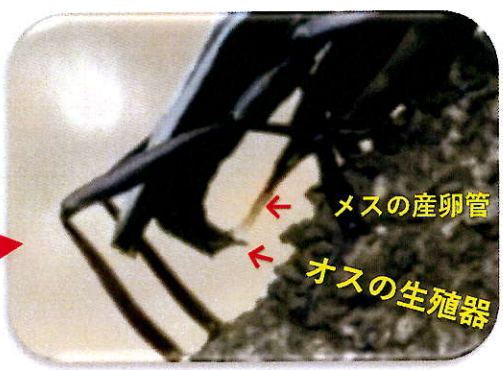
② 成虫の行動観察

→ クビアカが実際にどのような行動を取るのか、観察を行った。

・２本の触角を常に動かして歩行移動を行う。木の上方から頭を下にして下に移動する頻度が多い。触角はレーダーの様な役割を果たしていると考えられる。
・成虫は縄張り意識が特に強いと言うことは無いが、個体同士が接触した時は双方が慌てて逃げる。
・息を吹きかけたり、水を掛けたりすると驚いて駆け足で逃げる。強く息を吹きかけたり、殺虫剤を噴射すると、身の危険を感じ飛翔する。うまく飛翔できず落下状態となった場合は羽を広げ地面付近でホバリングの体勢を取り、落下の衝撃を和らげようとする行動を取る。
・人が近づいてもさほど驚かないし逃げることもしない。小学生児童の甲高い声には触角を頻繁に動かし、驚くような反応を見せた。（中低音より高音の周波数に反応を示す傾向あり）
・桜の木を揺するなどの震動を与えると動きを止め、周囲をくまなく観察するような仕草を見せた。振動に敏感な習性を見せた。クビアカの振動による行動制御を確認する事が出来た。（衣浦ほか, 2024）
・桜の木にはカメムシも多く発生しているが、カメムシが取り付いている木にはクビアカがいない。クビアカはカメムシを嫌う傾向にあるのではないかと考えられる。カメムシのフェロモンを感じ、同じ木に止まる事を避けている様にも思える。
・気温３０℃以上、日差しが強い午前中に交尾をしているクビアカを見かける事が多い。なお、交尾中に近づいても逃げるような事は無い。メスが下、オスが上に乗り交尾を行う。



拡大



今回数多く見かけた「キマダラカメムシ」



7．クビアカがどのような状況に置かれると飛翔するのか（実験1）

① クビアカの飛翔についての実験 （クビアカ捕獲にあたり知っておきたい情報なので実験により確認）

→ クビアカはどうなると飛ぶのか、またどの程度の距離を飛ぶのか実験をした。

【体全体に水をかける】

予想：驚いて飛ぶ → **結果**：少量の水では飛翔しない。体全体に水が掛かるなどした時に飛んだ。

【息を吹きかける】

予想：驚いて飛ぶ → **結果**：飛ばなかった。木から振り落とす勢いで思いっきり息を吹きかけたら飛んだ。

【大きな声を出す】

予想：驚いて飛ぶ → **結果**：触角をばたつかせ、周囲の状況を確認するが飛ばなかった。

【直接接触する・撫でる】

予想：驚いて飛ぶ → **結果**：初回接触時は急ぎ足で逃げる。２、３回目に接触された時に飛んだ。

【防虫スプレーを噴射】

予想：驚いて飛ぶ → **結果**：防虫スプレーに含まれる成分が体表に付き、うまく羽を広げることが出来ず、痙攣（けいれん）しながら落下した。

考察：クビアカは触角や体に強い刺激があると飛ぶということが分かった。セミなどのように人が近づいてもすぐに飛ぶことはなく、捕食者がほぼ居ない現状がクビアカを大胆にさせていると考える。

8．クビアカはどの程度の距離を飛翔するのか（実験２）

予想：50～60m 程度飛ぶ

結果：クビアカは飛翔しながら蛇行し、次に止まる木を探しながら４～５ｍの高さを保ち、飛翔した。３回飛翔を確認し、それぞれ100m、150m、120mと予想以上の距離を飛翔した。

考察：想像していたよりも長距離を飛んだ。クビアカの羽をめくると下に２枚茶色い羽が有り、合計４枚の羽を使って飛んでいた。羽の回転数も速く、秘めたるパワーに驚いた。この飛行能力で毎年生息範囲を拡大してきたのだと思う。

9．エサの嗜好性に関する実験（実験３）

① 成虫が食べるエサの嗜好性に関する実験

→ なるべく効率的かつ非接触方法で捕獲できる方法を考えた時、トラップ（捕獲器）を仕掛けて成虫を捕獲する手法が効果的ではないかと考えた。クビアカツヤカミキリをおびき寄せるエサとして何が最適なのかを知る事が必要となるため、複数の桜の木に様々なエサを置き、どのエサに成虫が寄ってくるのか実験する事にした。エサの設置位置は桜の枝が分かれている平坦な所とした。エサの設置は午前　８時～１２時までの４時間、気温３０度以上で晴天、直射日光が良く当たるクビアカ出現の好条件下で実験を行った。

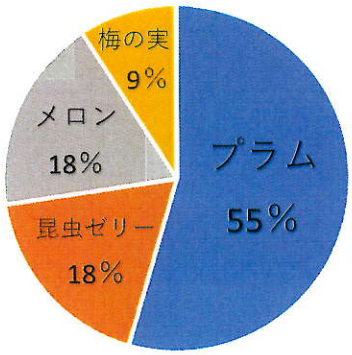


八條用水左岸歩道 ３１本

	【エサの種類】	【結果】	【捕食状況】	【匹数】
①～⑩ の木 Aゾーン	昆虫ゼリー	○	食べる	２匹
	きゅうり	×	興味を示さない	０匹
	桃の缶詰	×	興味を示さない	０匹
⑪～⑳ の木 Bゾーン	梅の実	○	食べる	１匹
	キウイ	×	興味を示さない	０匹
	サクランボ	×	興味を示さない	０匹
㉑～㉛ の木 Cゾーン	メロン	○	食べる	２匹
	フルーツ飴	×	興味を示さない	０匹
	プラム	◎	大変好んで食べる	６匹

予想：昆虫ゼリーが一番食いつきが良く、次いで桃の缶詰、メロンの食いつきが良い。
結果：プラムが一番食いつきが良く、次いで昆虫ゼリー、メロン、梅の実という結果になった。
考察：プラムだけ飛び抜けて食いつきが良く、プラムが発する匂いにすぐ反応することから、クビアカが好む何らかの成分がプラムに含まれているのではないかと思った。

クビアカが
好むエサの割合



■プラム ■昆虫ゼリー ■メロン
■梅の実 ■きゅうり ■桃の缶詰
■キウイ ■サクランボ ■フルーツ飴



プラムをガツガツ
食べるクビアカのペア

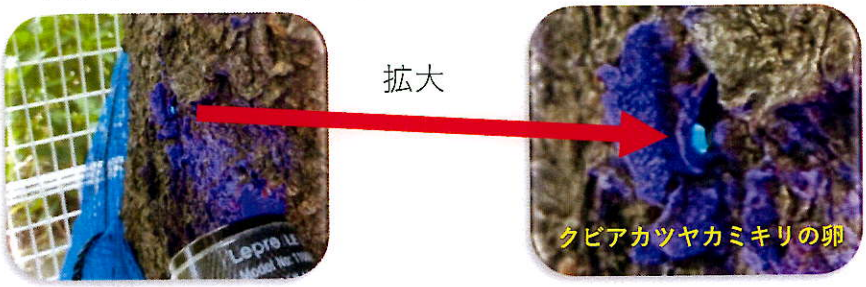
他のエサに比べ、圧倒的にプラムを好む結果となった。またプラムに集まった６匹については、オス３匹、メス３匹となり、オス、メスでエサの嗜好に偏りが無いことが分かった。プラムに関しては他のエサと比べて食い付きが良く、オス、メス共にガツガツと食べる様子が見られた。メスがプラムを食べている状況で交尾を行っているペアもいた。この時オスは交尾に集中しており、エサは食べなかった。

★被害拡大を防止するための【課題１】への対策

→ 成虫を捕殺することで絶対数を増やさない対策を行うことについては、エサ（プラム）による誘因トラップを360度日の光が当たる見通しの良い桜の木に多数仕掛け、クビアカに接触せず大量に捕獲することが出来る可能性が示唆された。

10. 木に産み付けられた卵の除去にどの程度の時間を要するのか（実験４）

今回、メスの成虫を捕獲した木を丁寧に観察すると、幹の裂け目に小さな卵を発見した。２～３mm程度の大きさなので目視では確認出来なかったが、ブラックライトを照射してみると緑の蛍光色で光を発するので発見する事が出来た。（栃木県農業試験場，2022）

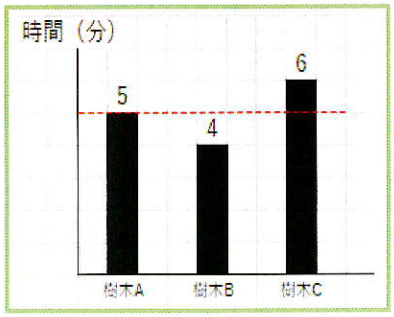


クビアカは一見してすぐに分かるような所には産卵しておらず、くぼみや樹皮の裏側など、ブラックライトなしでは発見が不可能な場所に多く卵を産んでいた。

そこで、クビアカの行動範囲とされる地上からの高さ２ｍまでの幹周りに卵が産み付けられていないか小型のブラックライトで丁寧に調査するのに１本あたりどの程度の時間を要するのか実験を行ってみた。

予想：１本あたり１分程度で産卵状況が確認出来る。
結果：産卵状況をくまなく確認しようとすると樹木１本あたり５分程度の時間を要した。
考察：クビアカは一見して分かる所ではなく、樹皮の裏側やくぼみといった発見がが困難な場所に産卵しており、ブラックライト無しでは発見が難しい事が分かった。

樹木Aでは５分程度の時間を要した。続いて樹木Bで４分、樹木Cで６分となった。平均して１本あたり５分程度の時間を要することが分かった。調査地の伝右川左岸・右岸の桜のうち、伐木された３本を除いた158本について産卵確認を行うと、158本×５分＝790分 となり、かなりの作業量となることが分かった。ブラックライトで卵を発見し、千枚通しで１個ずつ潰していく方法は現実的では無いと思った。産卵されている可能性のある樹木に卵を孵（かえ）さない様な成分を含んだ薬剤を散布し、孵化を防止する方法が現実的ではないかと思う。なお、ブラックライトについてはクビアカに照射すると触角を忙しく動かし、明らかに反応している様子がうかがえた。市販の安価なブラックライトは可視光を抑え蛍光物質を光らせる用途向けに設計されている。一般的な紫外線（UV）にはUVA・UVB・UVCが有るが、ブラックライトはこのうち、長波長側のUVAだけを比較的弱い強度で出している。UVAに著しく反応したクビアカだが、朝日が当たる東側にいる事が多く、クビアカが紫外線（UVA）を好むことががわかった。



★被害拡大を防止するための【課題２】への対策

→ 樹木に産み付けられた卵を孵化させない対策として、卵が孵化しないような薬剤を散布して幼虫が樹木内に侵入することを防ぐ方法を模索していく。

11. 来年に向けて成虫捕獲のためのトラップ作成

来年、クビアカの成虫を捕獲することを想定し、トラップの試作品を作った。材料はペットボトル、クビアカの体色と同じ黒色のガムテープ、カッターナイフを使用し、図のように雨が入らない様に屋根を作り、一度入ったクビアカが脱出しない様に「かえし」も設置した。設置から回収まで１週間を想定し、これに耐えられる構造とする事を念頭に作ってみた。



12. 実験のまとめと感想

クビアカのプラムに対する食欲旺盛さが他の食べ物と比べても突出している事が今回分かった。また、樹皮に産卵された卵についても発見が難しいので、卵は産み付けられたという想定のもとで対策を考える必要があると感じた。特定外来生物であるクビアカツヤカミキリは移動や飼育が法律で禁止されているため、生態観察や実験は生息する現場でのフィールドワークに限定される。今年の夏も３５度を超える日が続き、観察や実験は１日４～５時間が限界で大変苦労したが、成虫を初めて目にする事が出来て嬉しかった。観察や実験を通じて新たな発見や気付きを数多く得る事が出来、非常に充実した探求活動を行う事が出来た。地域の方々から「研究頑張ってください」、「桜の木を守ってください」などの暖かいお声も頂き、大変励みになった。クビアカツヤカミキリにはまだまだ謎が多いので今後も調査は継続していきたいと思う。

13. 今後の展望

① 成虫捕獲のためのトラップを作成し、現地に設置する。設置位置については０ｍ～２ｍの範囲で高さを変え、効果的に大量捕獲出来る位置、方角などを特定する。

② 木に産み付けられた卵を特定し、マーキングを行う。その上で卵が孵化する前に薬剤を吹きつけ、卵が孵化するかしないか、定点観測を行う。

★ クビアカツヤカミキリの生態が詳細に解明されることで、環境管理や景観など多岐にわたる場面に展開出来ると思われる。

最後に、今回樹木の管理者である草加市みどり公園課のご担当者と情報を共有させて頂いた事で、研究をスムーズに進める事が出来ました。お忙しい中、対応をして頂きましてありがとうございました。

【参考図書・引用文献】

草加市役所ホームページ / https://www.city.soka.saitama.jp/cont/s1805/040/010/010/PAGE0000000000000069787.html ・ 埼玉県環境科学国際センター / サクラの外来害虫 "クビアカツヤカミキリ" 情報

埼玉県環境科学国際センター発行 / 「サクラの外来害虫"クビアカツヤカミキリ" 被害防止の手引き（第７刷）」 ・ 栃木県農業試験場 / 研究成果集第42号 ブラックライトを使用したクビアカツヤカミキリ卵の簡易検出法の開発

野外におけるクビアカツヤカミキリ成虫の振動による行動制御 / https://pub-files.atlas.jp/fs/public/odokon68/ver_2/abstract/ja/A-26.pdf

ブラックライトを使用したクビアカツヤカミキリ卵の簡易検出法の開発 / https://www.agrinet.pref.tochigi.lg.jp/nousi/seikasyu/seika42/seika_ken5_blacklight.pdf